東海・北陸版
名古屋支局
〒450-0002
名古屋市中村区名駅5-4-14
花車ビル北館3階
電話052(582)5826
FAX052(561)3230

グループ会社 焼却施設から排出

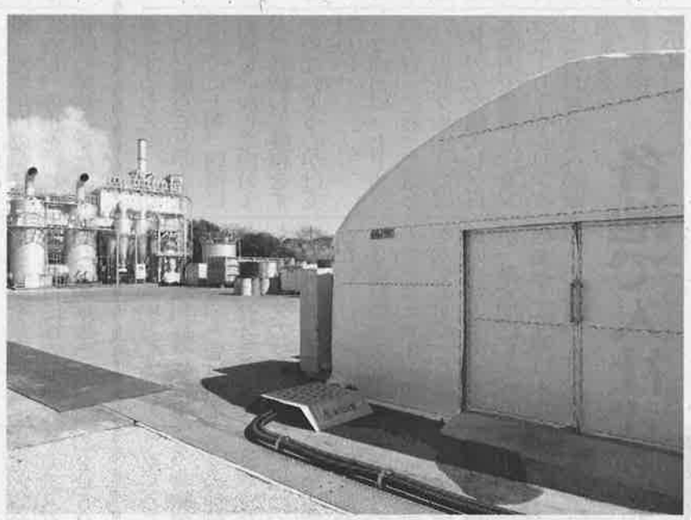
CO_2と温熱 農業に有効活用

環境負荷低減へ貢献

【豊橋市＝愛知】カーボンニュートラル社会の実現に向けて各地でさまざまな取り組みが行われるなか、マルシメ（本社豊橋市・大熊康丈社長）は先頃、グループ会社の焼却施設から排出されるCO_2（二酸化炭素）や温熱を農業に有効活用しようと、地元の豊橋技術科学大学と共同で「セミクローズド温室」の研究を開始した。

マルシメは石油製品の販売だけでなく、EV（電気自動車）の取り扱いやスタートアップ企業支援など幅広く事業展開する同社は、以前から環境問題などにも積極的に取り組んでおり、今回の共同研究で暖房コストや環境負荷の低減、農作物の収穫量増加を検証する。

研究の核となるのは、同大の高山弘太郎教授が研究・開発した「SPA（スピーキング・プラント・アプローチ）セミクローズド電化温室」。高気密性や換気の完全制御、さらには室内循環と空調により、リアルタイムで温度、湿度、CO_2濃度の管理が可能となるため、従来の温室とくらべて3～5倍の収穫量を確保できる。


焼却施設に併設したセミクローズド温室（手前）

同温室は、グループ会社で廃棄物処理などを行うマルサワ（同市）の廃棄物焼却施設に併設するかたちで設置した。トマトなど栽培する予定で、検証には同大の研究員があたる。期間は2027年3月31日まで。

同社は「共同研究を通してCO_2や廃熱の有効活用などが実証されることで、少しでも環境問題の改善につながれば」と期待する。

トマト栽培の様子

「創業100年の中心に」

新入社員16人が成長誓う

エザキグループ2026年度入社式

江崎加苗代表

【名古屋】エザキグループ（江崎加苗代表）は1日、エザキ（出光系＝名古屋市・中本正二社長）本社で2026年度入社式を行い、新入社員16人が社会人としての一歩を踏み出した。

式典には江崎代表、中本社長をはじめ、菅沼宏明エザキコーポレーション社長、江崎弘康レンタリース東海社長らグループ役員のほか、来賓の渡辺一彦出光興産中部支店長らが出席した。

江崎代表は「1人も欠けることなく入社式を迎えることができてうれしい」と笑顔。同グループの歴史を振り返りながら、2033年の創業100年に向けて「その時には会社の中心になってほしい」と期待した。

さらに「（社会の変化に）エザキグループは早く柔軟に対応できる集団だと思っている。よりよい会社、強いグループになっていくためにも全員で前に進んでいきましょう」とあいさつした。

来賓を代表して渡辺支店長は、エザキグループの人材育成について「私たちも学ぶべきところが多い。エザキグループは業界の変化に対応したさまざまなビジネスに携わっており、（個々のスタッフが）自分自身を成長させるチャンスが大きく広がっている」と話した。

その後、新入社員を代表して服部正大（しょうた）さんが「会社の歴史や思いをつなぎ、新たな未来を担う存在になることを決意します」と誓いの言葉を述べた。

誓いの言葉を述べる服部さん

事業計画など全議案承認

ガソリン不当廉売調査 違反認めず

島竜彦理事長

【富山】富山県石商・協（島竜彦理事長）は先頃、富山市内で役員会を開催。2026年度事業計画などの全議案を承認した。

冒頭、島理事長が「ホルムズ海峡の事実上閉鎖という異例の事態が起こっており、長期化した場合、供給不安が一気に広がる。日本は日量310万㍗の原油を処理している

前例ないレベルの 仕切り安・業転高

第3週格差 ガソリン36円、軽油48円超

東海地区3月

【名古屋】本紙名古屋支局調べによると、東海地区（愛知、岐阜、三重の3県）SSにおける3月の元売仕切りと業転の値動きは、前月の仕切り高・業転安から仕切り安・業転高に大きく逆転し、格差は月平均でガソリンが㍑17円10銭、軽油が23円78銭、灯油は10円8銭にまで拡大した＝グラフ参照。

2月平均はガソリン4円73銭、軽油8円73銭、灯油13円68銭の仕切り高・業転安。3月第1週まで仕切り高・業転安だったが、第2週から第4週にかけて大幅な仕切り安・業転高が続いた。

値動きをみると、ガソリンは第1週（5日改定）の1円60銭の仕切り高・業転安から第2週（12日改定）の6円30銭の仕切り安・業転高に逆転。第3週（19日改定）はさらに格差が拡大し36円も業転が仕切りより高かったが、第4週（26日）は縮小し27円70銭となった。

軽油は第1週の5円40銭の仕切り高・業転安から第2週の22円50銭の仕切り安・業転高に逆転。第3週はさらに格差が拡大し48円60銭も業転が仕切りより高かったが、第4週は29円40銭に縮小した。

灯油は第1週の2円70銭の仕切り高・業転安から第2週の13円40

東海・北陸

4月に入り、混乱が著しかった外販価格に若干落ち着きが戻ってきた。イラン情勢の緊迫化と原油供給の不安定化により余剰玉がひっ迫し、東海・北陸地区でも陸上スポット価格が続騰。足元でも系列安・業転高の傾向は続いているが、3月19日の補助金開始前後の「めちゃくちゃな」（同地区関係者）業転見積価格は徐々にだが妥当なレベルに近づきつつある。

Today's TOPICS　〝逆転現象〟継続も変化

仕切り格差ピークから縮小